- 本日は弊社の決算説明会にご参加いただきありがとうございます。

本日の説明内容

- 決算総括
- 2026年3月期　第2四半期累計　実績
- 2026年3月期　通期見通し
- まとめ

注：本資料において当期純利益・損失は、親会社株主に帰属する当期純利益・損失を示す

- 本日の説明内容はご覧の通りです。

決算総括

決算総括

第2四半期累計実績

- グローバル販売台数 60万9千台
  売上高2兆2,385億円 / 営業損失539億円 / 当期純損失453億円
- 第2四半期は営業損失78億円
  自動車関税引き下げタイミングの影響を除きブレークイーブン

通期見通し

- グローバル販売台数130万台 / 売上高4兆9,000億円
  営業利益500億円 / 当期純利益200億円の計画に変更なし

株主還元

- 中間配当は25円
- 年間配当予想は55円

- まず、決算の総括です。
- 2026年3月期第2四半期累計の実績は、グローバル販売台数は60万9千台、売上高は 2兆2,385億円、営業損失は 539億円、当期純損失は453億円の実績となりました。
- ブレークイーブンを目指した第2四半期は、営業損失78億円、当期純損失は32億円となりました。
- 日米間の自動車関税引き下げタイミングが当初想定よりも後ろ倒しとなった影響が103億円あり、ブレークイーブン未達の要因となりました。
- 未達ではありましたが、下期反転の土台ができたと考えています。
- 通期業績見通しは、売上高4兆9,000億円、営業利益500億円、当期純利益200億円の見通しに変更ありません。
- 下期は新型CX-5の導入など台数構成での利益最大化とコスト改善の進捗により1,000億円規模の営業黒字を目指します。
- 引き続き、国内生産台数の維持、コスト削減を加速するとともに、お取引先さま・販売店とともにサプライチェーン強化に努めてまいります。
- 株主還元につきましては、中間配当は25円とさせていただきます。未定としておりました期末配当予想を30円とし、年間配当は前年同額の1株当たり55円となる見通しです。

2026年3月期　第2四半期累計　実績

2026年3月期　第2四半期累計　台数実績

(千台)	2025年3月期	2026年3月期	対前年	
	第2四半期累計	第2四半期累計	第2四半期累計	
生産台数※	603	555	-48	-8%
グローバル販売台数				
日本	64	68	+4	+6%
北米	304	306	+2	+1%
欧州	89	74	-15	-17%
中国	34	32	-2	-7%
その他市場	139	129	-9	-7%
合計	630	609	-21	-3%
米国	213	209	-4	-2%
オーストラリア	50	45	-5	-9%

MAZDA MOTOR CORPORATION

※月次公表ベース（中国を含むグローバル生産台数/OEM受給車両は含まない）

6

- 2026年3月期第2四半期累計の実績をご説明いたします。
- 生産・販売台数の実績です。
- 生産台数は対前年8%減の55万5千台です。米国における不透明な経済情勢と関税環境を勘案し、生産台数を抑えたことが主な要因です。
- グローバル販売台数は対前年3%減の60万9千台です。
- 欧州の減少が主要因です。同地域では、年後半にCX-5の新モデルを本格導入予定ですが、現行CX-5ならびにMazda2のICEモデルが販売終了となったことが背景です。
  一方で、ラージ商品は約8千台、CX-30は約2千台増加しました。
- また、オーストラリアでは競争が激化しており、特に小型車や低価格帯セグメントで販売が弱含みとなりました。
- 一方で、日本および北米で販売が増加したことは好材料です。

2026年3月期　第2四半期累計　財務指標

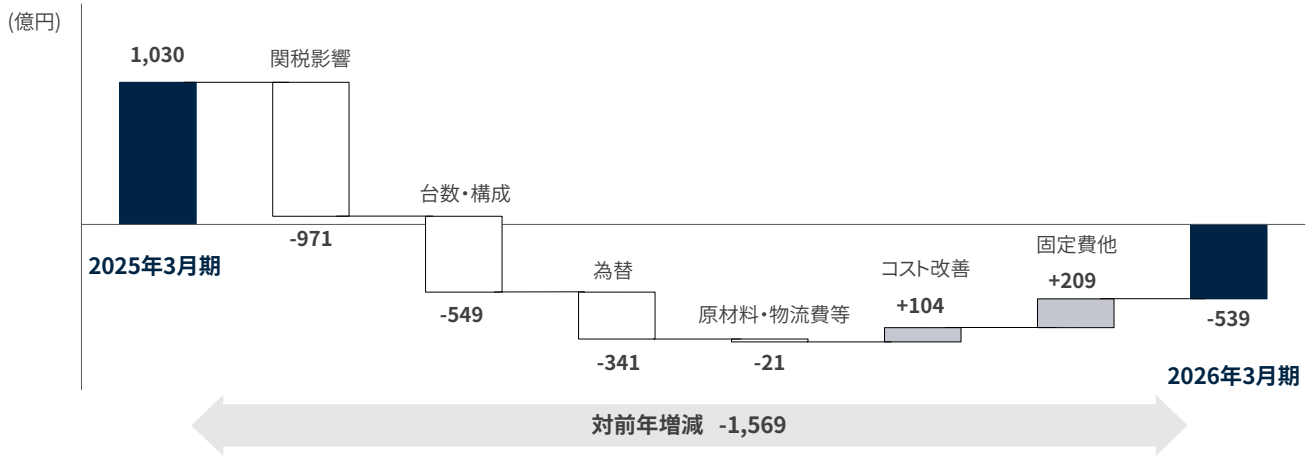
(億円)	2025年3月期	2026年3月期	対前年	
	第2四半期累計	第2四半期累計	第2四半期累計	
連結出荷台数 (千台)	590	543	-47	-8%
売上高	23,939	22,385	-1,554	-6%
営業利益	1,030	-539	-1,569	-
経常利益	835	-213	-1,048	-
当期純利益	353	-453	-806	-
売上高営業利益率	4.3 %	-2.4 %	-6.7 pts	
EPS (円)	56.1	-71.8	-127.9	
為替レート (円)				
USドル	153	146	-7	
ユーロ	166	168	+2	
タイバーツ	4.27	4.47	+0.20	
メキシコペソ	8.49	7.67	-0.82	

MAZDA MOTOR CORPORATION

7

- 続いて財務指標です。
- 連結出荷台数は対前年8%減の54万3千台と概ね計画どおりの進捗となりました。
- 売上高は対前年6%減の約2兆2,000億円強、
- 営業損失は539億円となりました。
- 営業利益の対前年比較についての詳細は次のスライドで説明します。
- 上期の当期純損失は453億円となりました。
- 平均為替レートは、USドルは対前年7円円高の146円、ユーロは対前年2円円安の168円となりました。

2026年3月期　第2四半期累計　営業利益変動要因（対前年比較）



台数・構成	-549	為替	-341	原材料費・物流費等	-21	コスト改善	+104	固定費他	+209
台数構成・価格	-429	USD	-70	原材料費	-35	ベースCI	+104	研究開発費	-98
販売奨励金	+75	EUR	+21	物流費	+14			減価償却費	-4
その他	-195	AUD	-94					品質関連費用	+198
		THB	-46					広告宣伝費	+13
		MXN	-48					その他	+100
		その他	-104						

MAZDA MOTOR CORPORATION　8

- 続いて、第2四半期累計実績の対前年の変動内訳をご説明します。
- 関税影響は対前年で971億円の減益要因となりました。
- 台数構成は、出荷台数の減少などにより549億円の減益要因となりました。
- 為替については、USドルをはじめとする主要通貨の円高の影響により341億円の減益要因となりました。
- 原材料・物流費等は、人件費上昇に伴う調達部品価格の上昇などにより21億円の減益要因となった一方、コスト改善による104億円でオフセットしました。
- 固定費他は、主に品質費用の改善やさまざまな費用削減の取り組みにより209億円の増益要因となりました。
- 以上の要因により、第2四半期累計の営業損失は539億円となりました。

2026年3月期　通期見通し

2026年3月期　通期　台数見通し

(千台)	2025年3月期	2026年3月期			対前年		対8月公表増減
	通期	上期	下期	通期	通期		通期
グローバル販売台数							
日本	152	68	87	155	+3	+2%	-6
北米	617	306	304	610	-7	-1%	+15
欧州	174	74	103	177	+3	+2%	0
中国	74	32	44	76	+2	+2%	0
その他市場	285	129	153	282	-3	-1%	-9
合計	1,303	609	691	1,300	-3	0%	0
米国	435	209	206	415	-20	-5%	+15
オーストラリア	97	45	53	98	+1	+1%	0

- 続いて通期見通しをご説明します。
- グローバル販売台数見通しは前年同水準の130万台から変更ありませんが、米国での想定以上に堅調な需要や中東の減少見通しなどを反映し、市場別の台数をアップデートしました。
- 日本では、ブランドとビジネス強化に取り組み、下期の販売は増加する見込みですが、最新状況を元にした計画を反映し通期販売台数見通しを修正しました。

2026年3月期　通期　財務指標

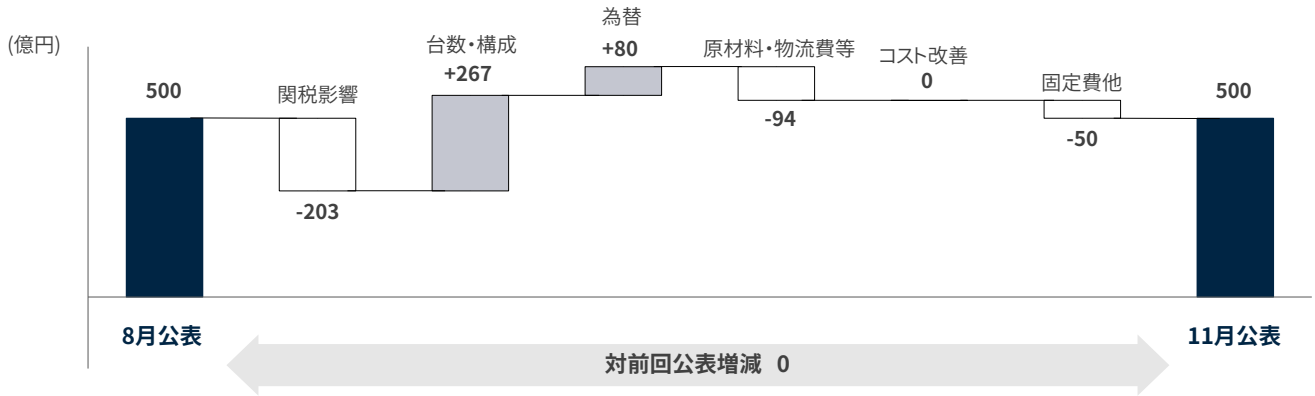
(億円)	2025年3月期	2026年3月期			対前年		対8月公表増減
	通期	上期	下期	通期	通期		通期
連結出荷台数 (千台)	1,219	543	650	1,192	-26	-2%	0
売上高	50,189	22,385	26,615	49,000	-1,189	-2%	0
営業利益	1,861	-539	1,039	500	-1,361	-73%	0
経常利益	1,890	-213	893	680	-1,210	-64%	+150
当期純利益	1,141	-453	653	200	-941	-82%	0
売上高営業利益率	3.7 %	-2.4 %	3.9 %	1.0 %	-2.7 pts		0 pts
EPS (円)	181.0	-71.8	103.5	31.7	-149.3		0
為替レート (円)							
USドル	153	146	149	147	-5		+2
ユーロ	164	168	174	171	+7		+2
タイバーツ	4.38	4.47	4.60	4.54	+0.16		+0.17
メキシコペソ	8.02	7.67	8.06	7.87	-0.15		+0.23

MAZDA MOTOR CORPORATION

11

- 続いて財務指標です。
- 営業利益の変動内訳は次のスライドで説明します。ここでは通期見通しを簡単にお伝えします。
- 連結出荷台数は119万2千台の見通しで、8月公表から変更ありません。
- 売上高は4兆9,000億円、営業利益は500億円、ROSは+1.0%の見通しで、8月公表から変更ありません。
- 経常利益については、8月公表から150億円増加の680億円の見通しです。
- 円安進行による為替差益やドル建て資産の金利収入が増えたことが主な要因です。
- 一方で、米国の排出規制の緩和に伴う購入済クレジットの評価損を計上しました。また、海外の調達計画変更に伴う負担金の発生を通期見通しに織り込みました。経常利益の改善をこれらの費用が相殺し、当期純利益は前回から据え置きの200億円となる見通しです。
- 期中平均の為替レートは、USドルは対前年5円円高の147円、ユーロは対前年7円円安の171円の見通しです。

2026年3月期　営業利益変動要因（対8月公表比較）



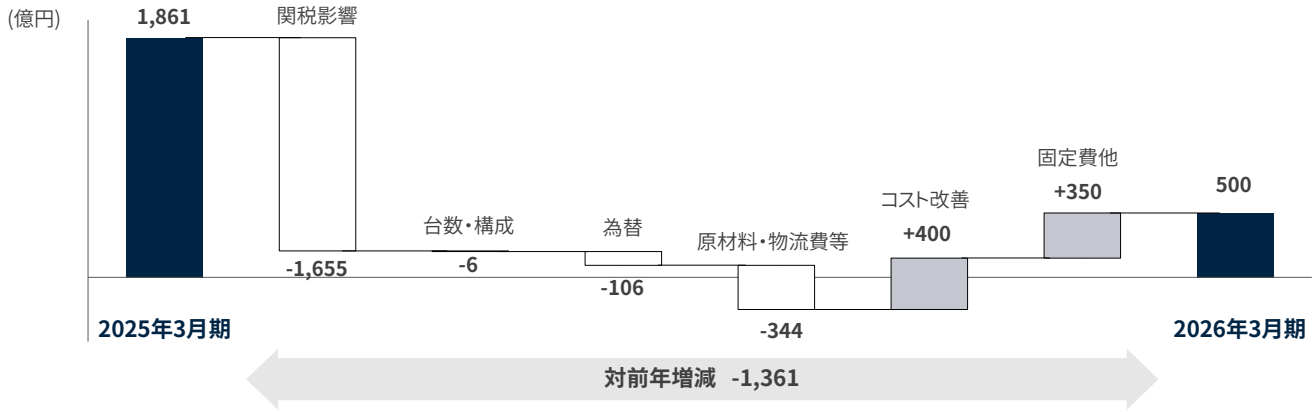
台数・構成	+267	為替	+80	原材料費・物流費等	-94	コスト改善	0	固定費他	-50
台数構成・価格	+188	USD	+37	原材料費	-94	ベースCI	0	研究開発費	0
販売奨励金	0	EUR	+65	物流費	0	構造的原価低減	0	減価償却費	0
その他	+79	AUD	+26					品質関連費用	0
		THB	-71					広告宣伝費	-50
		MXN	+40					その他	0
		その他	-17						

MAZDA MOTOR CORPORATION

12

- 先に申し上げたように、営業利益通期見通しは、8月公表から変更ありませんが、その構造は少し変わります。
- 関税影響については、日米間の自動車関税引き下げタイミングが想定より後ろ倒しになったことによる悪化影響が103億円ありました。発表は8月1日でしたが、実施は9月16日となりました。また、収益性の高い米国への輸出台数増の影響により関税負担が100億円程度増加しました。
- 一方で、台数構成は米国での台数増、年式切り替えでの価格引き上げを行い、267億円の増益要因の見通しです。
- 為替は、80億円の増益要因となり、
- 原材料・物流費等は、サプライヤーからの値上げ要請に対応するため94億円の減益要因となる見通しです。
- 固定費他については、堅調な米国市場を中心に、広告宣伝費を強化します。

2026年3月期　営業利益変動要因（対前年比較）



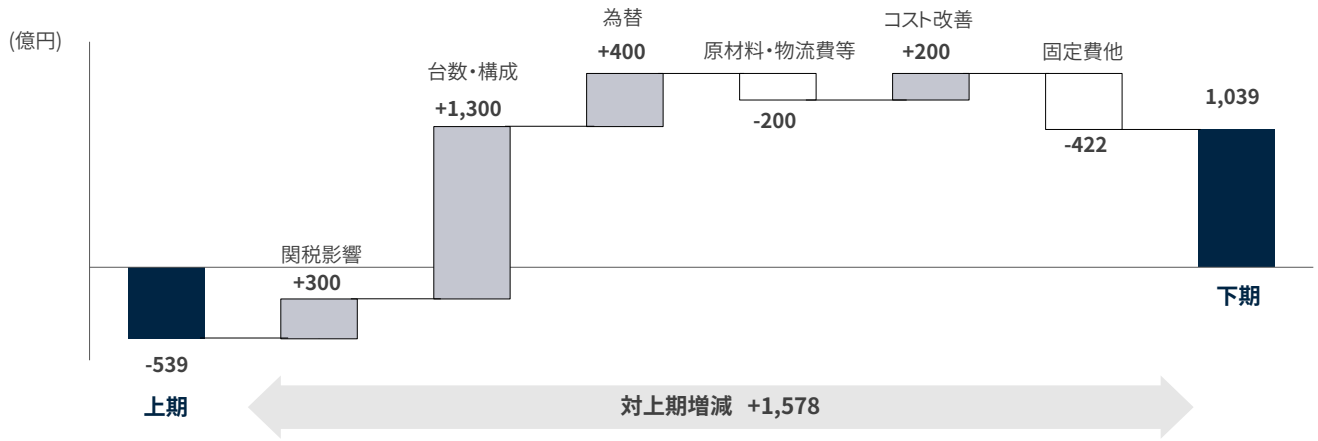
台数・構成	-6	為替	-106	原材料費・物流費等	-344	コスト改善	+400	固定費他	+350
台数構成・価格	-12	USD	-105	原材料費	-369	ベースCI	+250	研究開発費	+80
販売奨励金	0	EUR	+219	物流費	+25	構造的原価低減	+150	減価償却費	-24
その他	+6	AUD	-96					品質関連費用	+51
		THB	-75					広告宣伝費	+17
		MXN	+9					その他	+226
		その他	-58						

MAZDA MOTOR CORPORATION　13

- 前回公表からの修正を反映した営業利益の前年からの変動内訳についてはご覧のようになります。
- 主な要因は米国関税負担です。日本からの輸出に対しては27.5%もしくは15%、メキシコからの輸出に対しては25%の関税負担により、ほぼ、前期の営業利益が打ち消されます。
- 更に、為替悪化、約100億円と、主に人件費上昇等による原材料費の悪化、約350億円がありますが、変動費と固定費の改善により、500億円の営業利益を目指します。

収益構造の転換と下期黒字化の見通し

- 下期は対上期で1,500億円レベルの改善を計画し昨年度レベルの営業利益に回復する見通し
- 出荷増、価格、車種構成の改善により台数・構成で大幅な改善を計画

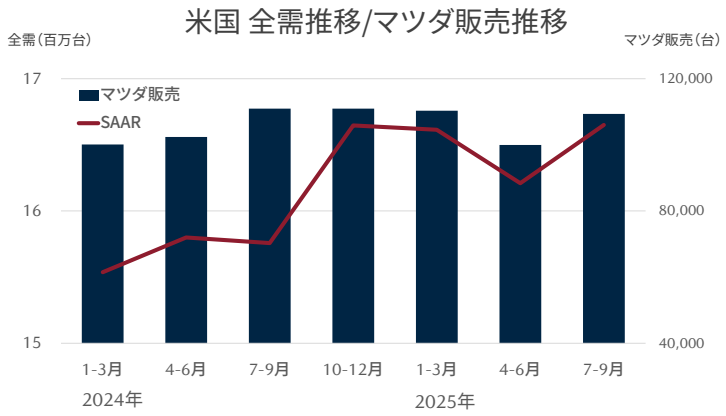


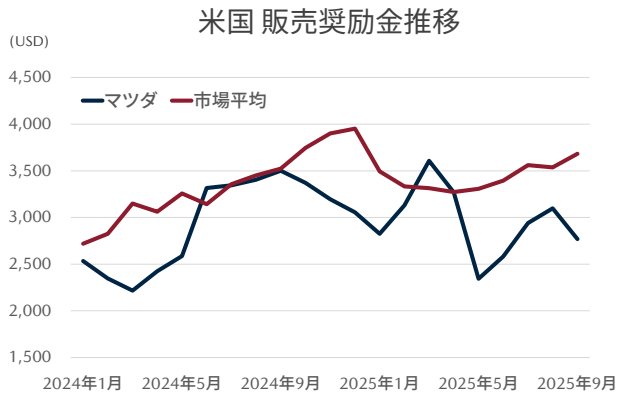
MAZDA MOTOR CORPORATION

14

- 上期の営業赤字から下期の黒字化へと大きく収益構造を転換します。こちらのスライドで詳細を説明します。
- 下期は上期対比で1,500億円の改善を見込んでいます。
- 関税の引き下げと為替の円安が一部寄与していますが、最も大きな改善は台数・構成によるものです。
- これまでご説明してきたとおり、特に米国市場では関税の影響を見極めるため、上期では慎重な生産、出荷対応をしていましたが、需要は想定を上回り、下期の販売見通しを引き上げました。さらに、2026年MY車導入時に$400-700の値上げを行うことで、利益率を改善しながらも、主要セグメントでの競争力を維持します。
- また、新型CX-5の本格立ち上げと欧州でのMAZDA6eの導入が下期の販売台数に寄与します。
- 各市場での販売施策については、後のスライドで更に説明します。
- 通期の変動費の改善と固定費の効率化はともに順調に進んでおりますが、ここに示すとおり、固定費は下期に増加する見通しです。
- 現在、下期の1,000億円の営業利益、3%超のROSを達成すべく、全社を挙げて懸命に取り組んでいます。

米国販売環境





- 堅調な需要が継続。通商環境を背景に供給面の不透明さは残るものの、競合各社値上げは慎重で、競争的な環境
- 当社はインセンティブを抑制しつつ、上期は対前年 -2%の販売実績
- 下期は関税率低減と根強い需要を活かし、積極的な販売機会を追求

MAZDA MOTOR CORPORATION

Source: Motor Intelligence 15

- 本日、すでに米国市場の需要について何度か触れましたが、こちらのスライドでは米国におけるマツダの販売と全需についてまとめています。
- 左側に、米国における四半期ごとのマツダの販売台数と、全需の年率換算値を示しています。米国の全需の年率換算値は、過去12カ月で1,600万台を上回って推移しており、直近、増加しています。マツダの四半期別の販売台数も堅調に推移しました。
- 全体として、インセンティブは、業界平均を下回るレベルで抑制しつつ、上期は前期比2%減の販売実績となりました。

主要市場の取り組み

- グローバル130の国と地域に適材適所で商品を展開し、販売機会を追求
- ラージ商品の広告・告知活動を強化、最適なインセンティブ施策を展開

北米

- MTM*を最大限活用。米国製の訴求とHEV追加でCX-50拡販

MAZDA CX-50 HYBRID

- 継続的な広告・告知活動によるラージ商品の需要創出・拡販
- カナダ、メキシコではブランド価値経営の浸透による台数増

欧州

- パートナーの技術を活用し、MAZDA6eを25年9月より発売

MAZDA6e

- 認知拡大などの継続的取組でラージ商品台数増（通期前年比 47%増）
- 新型CX-5を2025年末に発売予定

新型MAZDA CX-5

日本

- 都市圏へ集中投資、需要ニーズに合致した販売網へ再編
- 認知拡大・集客強化でラージ商品の販売最大化（通期前年比12%増）

中国

- 電動SUV MAZDA EZ-60の新規導入。初期販売は計画を過達
- MAZDA EZ-6と合わせNEV車ラインアップ強化、相乗効果で拡販

*トヨタ自動車との合弁工場「Mazda Toyota Manufacturing, U.S.A., Inc.」(米国アラバマ州)

MAZDA MOTOR CORPORATION

16

- 販売増は下期の重要な要素となりますので、マツダの主要市場での取り組みについて紹介いたします。
- 米国は当社にとって最大の市場ですが、グローバルで130の国と地域でビジネスを行っており、このネットワークを活用し販売機会を最大限追求します。また、4モデルが出そろったラージ商品は、各地域で告知活動を強化し、成約を増やすことで、収益性の高い商品の拡販を図ります。
- では、市場ごとにもう少し詳しくご説明します。
- 北米では、特に米国において、アラバマのMTMを最大限活用する方針の下、ハイブリッドを含め、CX-50の更なる拡販を図ります。
- 欧州においては、ラージ商品とCX-30の拡販を図るほか、当社初のバッテリーEVセダンであるMazda6eを先日発売しました。メディアの方々からの評価も高く、受注も計画通り推移しています。また今年後半には、新型CX-5の生産を本格化するなど、欧州ではよいニュースが続きます。
- 日本では、首都圏への集中投資など販売網の再構築を進めており、お客様のブランド体験や利便性向上などの施策を着々と進めています。また、利益率の高いSUVシリーズのマーケティング強化などの施策を展開し、2026年中の新型CX-5の導入に備えます。
- 中国では、長安汽車との協業により、9月末に発売したEZ-60は順調に立ち上がっています。すでに導入済みのEZ-6とともに、重要かつ成長著しい新エネルギー車市場での拡販を図ります。

新型「MAZDA CX-5」、当期から導入開始

- 100以上の国と地域で販売され、累計販売台数450万台[*1]を超え、現在、当社の最量販車種
- マツダらしい進化した走りやデザインと、クラストップレベルの室内空間を両立
- 電子プラットフォーム「MAZDA E/E ARCHITECTURE+」を搭載し、進化したHMI[*2]や先進運転支援システムにより新しい運転体験を実現
- お取引先さまとの「共創活動」の成果を反映
- 2025年末から発売予定
  - 欧州：2025年12月
  - 米国/カナダ：2026年初頭
  - 日本や豪州などその他の市場：2026年中
- 2027年中に「SKYACTIV-Z」と組合せたマツダ独自のハイブリッドシステムを搭載予定

*1 自社調べ
*2 ヒューマンマシーンインターフェース

MAZDA MOTOR CORPORATION 17

- 今日は何度か新型CX-5について触れましたが、商品そのものをもう少しご説明します。
- マツダの最量販車種であるCX-5は、2012年の発売以来、累計販売台数は450万台を超えました。現行モデルは多くのお客さまに愛されてきた実績を踏まえ、新型ではひと目でCX-5と認識できるデザインでありながら、室内空間、乗り心地、走り、テクノロジーの領域で、さらなる進化を図りました。
- 電子プラットフォーム「MAZDA E/E ARCHITECTURE+」を搭載し、大型ディスプレイや高度な音声認識機能を備え、進化したヒューマンマシーンインターフェースなど新しい運転体験をお楽しみいただくことが可能です。
- さらに、2030 経営方針で掲げた「原価低減とサプライチェーン強靭化」の一環として、お取引先さまと開発初期の段階からサプライチェーン全体で合理的かつ効率的なものづくりを実現する「共創活動」に取り組んでおり、例えば、日本製鉄さまとの「共創活動」の成果の第 1 弾を新型「CX -5」に織り込みました。これにより、車体剛性や衝突安全性などを確保しながら、原価低減とCO2排出量の削減を実現しました。
- 2027年中には「SKYACTIV-Z」と組合せたマツダ独自のハイブリッドシステムを搭載したCX-5を導入する予定です。
- CX-5は、マツダの近い将来において期待していただけるモデルであり、現在開催中のジャパンモビリティショーに展示しています。更にマツダのブースでは、2035年を見据えた2台のエキサイティングなビジョンモデルも展示しています。
- 1つ目のコンセプトは、微細藻類由来のカーボンニュートラル燃料とCO_2回収技術により、「走るほどにCO_2を減らす未来」を体現しています。
- もう一つは、人の感覚をデジタル化した「人体・感性モデル」と共感型AIの融合によって、「クルマが人の意を汲み、意のままに、その可能性を拡げてくれる」未来を体現しています。
- この2つのビジョンモデルを通じて、私たちは来場者の皆さまに「走る歓びは、地球を笑顔にする」という未来を一緒に感じ、ワクワクしていただきたいと考えています。

まとめ

まとめ

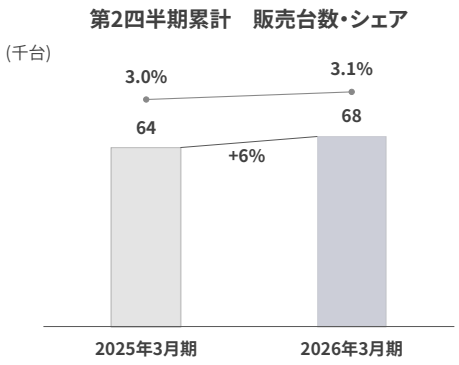
- 米国関税動向など厳しい経営環境が継続
- 環境変化への対応を全社一丸となって進捗させ、
  通期営業利益500億円の達成を目指す
- 中間配当25円、年間配当予想は前年同額の55円
- 経営環境の変化を成長の機会と捉え、パートナーと共にブランド価値経営を加速し、より強固な企業・ブランドへ

- 最後にまとめです。
- 第2四半期を終え、当社は依然として厳しい経営環境の中にあります。
- 低減されたとはいえ、米国の関税動向は非常に大きな影響を及ぼしており、米国やその他の国の様々な経済領域における不透明感の要因となっています。
- インフレや雇用環境など経済状況と、引き続き通商関係の状況を注視し、素早く必要な対応を講じてまいります。
- ネクスペリア製部品の影響については、現時点、生産への影響はでておりませんが、部品メーカーさまと緊密に連絡を取り合い影響を調査中です。
- 構造改革と、この変化への素早い適応を、全社を挙げて進めています。今期営業利益500億円の達成を目指すことに変更はありません。
- それも踏まえた上で、中間配当は25円、また未定としていた期末配当予想は30円とし、中間配当と合わせた年間配当予想は前年並みの55円とさせていただきます。
- 下期での黒字回復と、来期の土台も出来てきたことを踏まえ、「安定配当」の方針に基づいて計画するものです。
- 「安定配当」と共に、中長期の経営方針・戦略の積極的な発信と対話に努め、株主様とも長期で安定的な関係を築いてまいりたいと考えています。
- 現在の経営環境の変化を機会として、全社一丸となって、更に強い会社、ブランドを目指してまいります。

mazda

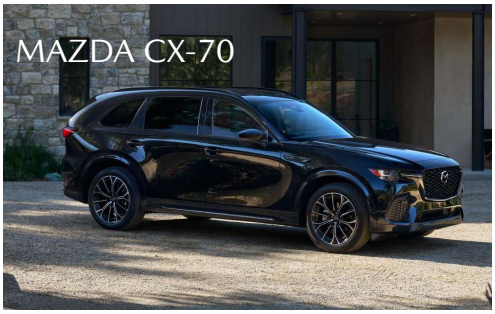
添付

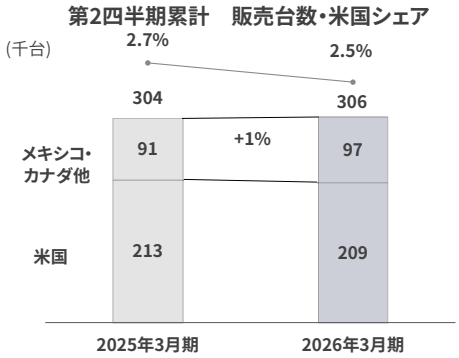
日本



- 対前年6%増の6万8千台を販売
- CX-60、CX-80の貢献により販売台数増加
- シェアは対前年0.1pts増の3.1%
  登録車シェアは同0.5pts増の3.8%
- 通期販売見通しは対前年2%増の15万5千台
- 10月よりMAZDA3/CX-30/CX-5/CX-60/CX-80にクリーンディーゼルエンジン専用の新機種「XD Drive Edition」などを追加

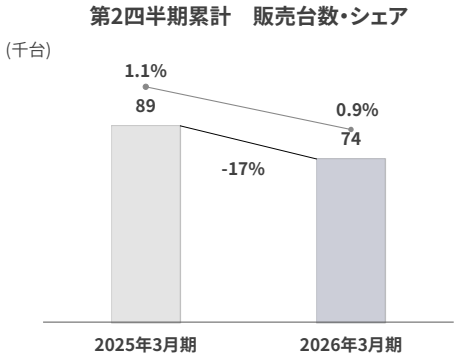
北米





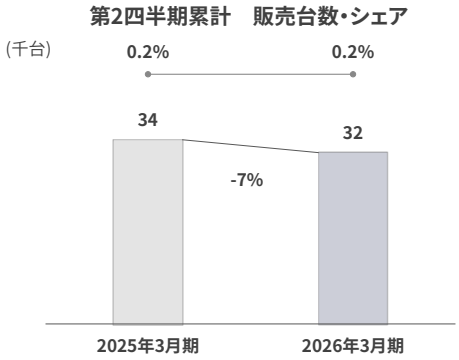
- 対前年1%増の30万6千台を販売
- 通期販売見通しは対前年1%減の61万台
- 米国:
  - 対前年2%減の20万9千台を販売
  - シェアは対前年0.2pts減の2.5%
  - CX-50、ラージ商品群が増加もCX-30が減少
- メキシコ:
  - 前年並みの4万9千台
  - 需要減少の中、前年並みの台数を維持しシェアを改善
- カナダ:
  - 対前年14%増の4万7千台
  - MAZDA3、CX-30、CX-70などが対前年販売増を牽引しシェア改善

欧州



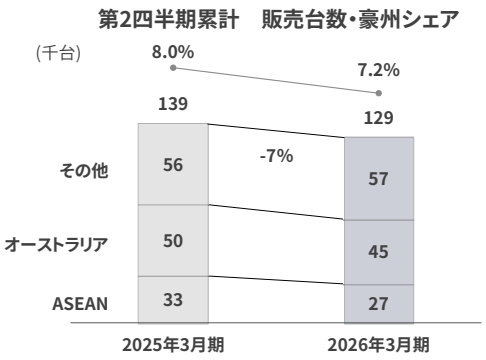
- 対前年17%減の7万4千台を販売
- シェアは対前年0.2pts減の0.9%
- MAZDA3/CX-30/CX-60/CX-80の販売は前年比で増加しているものの、生産終了したMAZDA2やCX-5の販売減により台数・シェアは減少
- 通期販売見通しは対前年2%増の17万7千台
- 主要国の販売
  - ドイツ: 対前年14%減の1万9千台
  - 英国: 対前年4%増の1万6千台
- 9月よりMAZDA6eの販売を開始
- 新型CX-5を2025年末発売予定

中国



- 対前年7%減の3万2千台を販売
  シェアは前年と同水準の0.2%を維持
- 新型電動クロスオーバーSUV MAZDA EZ-60は、9月より販売を開始し、計画を上回る受注を獲得
- 新エネ車への需要シフトが加速する中、電動専用モデルMAZDA EZ-6およびMAZDA EZ-60が内燃機関車の減少分を補完
- 通期販売見通しは対前年2%増の7万6千台

その他市場



- 対前年7%減の12万9千台を販売
- 通期販売見通しは対前年1%減の28万2千台
- オーストラリア:
  - 対前年9%減の4万5千台を販売
  - シェアは対前年0.7pts減の7.2%
  - 市場に低価格/新技術を強みとする新規参入が増加しており、競合環境の激化に苦戦したが、ラージ商品群では対前年57%の販売増
- ASEAN:
  - 対前年17%減の2万7千台を販売
  - タイ:　対前年22%減の4千台
  - ベトナム:　対前年1%減の1万5千台
  - マレーシア:　対前年48%減の4千台

2026年3月期　財務指標

(億円)	2025年3月期	2026年3月期			対前年		対8月公表増減
	通期	上期	下期	通期	通期		通期
連結出荷台数 (千台)	1,219	543	650	1,192	-26	-2%	0
売上高	50,189	22,385	26,615	49,000	-1,189	-2%	0
営業利益	1,861	-539	1,039	500	-1,361	-73%	0
営業外損益	29	326	-146	180	+151	+527%	+150
経常利益	1,890	-213	893	680	-1,210	-64%	+150
特別損益	-332	-223	-157	-380	-48	+14%	-200
税引前利益	1,558	-436	736	300	-1,258	-81%	-50
当期純利益	1,141	-453	653	200	-941	-82%	0
売上高営業利益率	3.7 %	-2.4 %	3.9 %	1.0 %	-2.7 pts		0 pts
EPS (円)	181.0	-71.8	103.5	31.7	-149.3		0
為替レート (円)							
USドル	153	146	149	147	-5		+2
ユーロ	164	168	174	171	+7		+2
タイバーツ	4.38	4.47	4.60	4.54	+0.16		+0.17
メキシコペソ	8.02	7.67	8.06	7.87	-0.15		+0.23

2026年3月期　連結出荷台数

(千台)	2025年3月期	2026年3月期			対前年増減		対8月公表増減
	通期	上期	下期	通期	通期		通期
連結出荷台数							
日本	136	70	81	151	+15	+11%	-7
北米	643	289	319	607	-36	-6%	+25
欧州	153	63	103	167	+13	+9%	-5
その他市場	287	121	147	268	-19	-7%	-13
合計	1,219	543	650	1,192	-26	-2%	0
米国	447	189	230	418	-29	-6%	32

2026年3月期　第2四半期累計　キャッシュ・フローおよびネット・キャッシュ

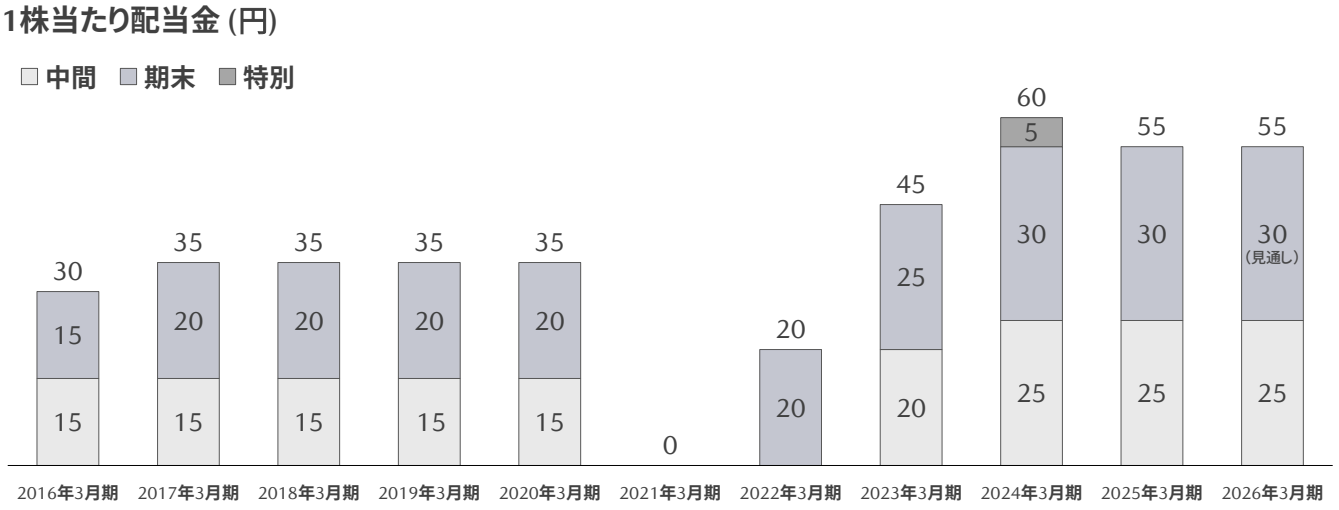
(億円)	2025年3月期	2026年3月期
	通期	第2四半期累計
営業キャッシュ・フロー	3,056	-1,979
投資キャッシュ・フロー	-2,000	471
フリー・キャッシュ・フロー	1,057	-1,507

(億円)	2025年3月期	2026年3月期	対前期末増減
	通期	第2四半期累計	
現金及び現金同等物	11,056	10,533	-523
有利子負債	7,052	8,021	+969
ネット・キャッシュ	4,003	2,512	-1,491
総資産	40,901	40,279	-622
自己資本	17,923	17,409	-514
自己資本比率	44 %	43 %	-1 pts

為替レート（期中平均）

（円）	2026年3月期			対前年増減			対8月公表増減
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	通期
USドル	146	149	147	-7	-4	-5	+2
ユーロ	168	174	171	+2	+12	+7	+2
カナダドル	106	107	106	-6	-1	-3	+1
オーストラリアドル	95	98	96	-7	0	-4	+2
英ポンド	196	200	198	0	+6	+3	+1
タイバーツ	4.47	4.60	4.54	+0.20	+0.11	+0.16	+0.17
メキシコペソ	7.67	8.06	7.87	-0.82	+0.52	-0.15	+0.23

配当について



将来見通しに関する注意事項

このプレゼンテーション資料に記載されている、当社の見通し及び将来の戦略については、今後の世界経済情勢、業界の動向、為替変動のリスクなど様々な不確定要素が含まれております。従いまして、実際の当社業績は見通しと大きく異なる結果となる場合があることをあらかじめご了承願います。

投資に関する最終決定は、上記の点を踏まえ、投資家の皆様ご自身の判断で行われるようお願いいたします。当プレゼンテーション資料に掲載された情報に基づいて投資された結果、万一何らかの損害を被られましても、当社および各情報の提供者は一切責任を負いかねますので、併せてご了承ください。